公立大学法人宮崎公立大学
第４期中期目標

令和６年９月

前文

現在、人口減少、社会経済のグローバル化の進展、情報技術の急速な発展、価値観の多様化等、大学を取り巻く社会情勢は激変の一途をたどっている。

特に、18歳人口の減少によって見込まれる大学入学者の減少は、今後の大学運営及び法人経営に大きな影響を与えることから、喫緊の課題として認識しなければならない。

このような中、宮崎公立大学が激変する環境に適応し、その存在意義を一層高めるためには、学生に選ばれる魅力ある大学となるよう教育研究の質を高め、高い識見と国際的な視野を持ち、社会に貢献する有能な人材を育成する必要がある。

あわせて、地域社会において大学に期待される役割を意識し、他の高等教育機関や産業界等との連携を拡充・強化しながら、地域貢献への取組を推進していく必要がある。

このような方向性のもと、宮崎公立大学には、受け身の学びではなく、主体的な学びを通して幅広い教養を身に付け、自律的な思考と判断ができる人材を育成する「リベラル・アーツ教育」を行う大学として、地域課題の解決や新たな価値の創出に率先して取り組み、自ら問題を解決できる能力を有する人材を育成し、学生に選ばれ、地域に必要とされる大学であり続けることを期待する。

そして、宮崎市立の大学として、「挑戦し、成長する　開かれたまち～ＯＰＥＮ ＣＩＴＹ ＭＩＹＡＺＡＫＩ～」の実現をめざす宮崎市と共に、多様な主体と連携し、平成５年の開学以来、教育・研究や地域貢献活動で蓄積してきた成果を生かしながら、人口減少社会における地域課題を解決し、持続可能な社会の実現をめざすことを求める。

１　中期目標の期間

令和７年４月１日から令和 13 年３月 31 日まで

２　重点目標

今期の中期目標期間においては、以下の３点を重点的に取り組む目標として設定し、各目標において関連する取組を分野横断的かつ積極的に展開していくこととする。

①　宮崎公立大学の「強み」である外国語教育を生かしながら、異文化理解及び多文化共生の促進に向けた取組を充実することで、社会経済のグローバリゼーションの変化に対応しうる幅広い教養と深い専門性を持った人材を育成する。 ②　デジタル技術を活用した教育・研究活動や地域貢献活動の取組を充実し、地域や企業に「新しい価値」を提供することで、人々の生活や企業の活動に貢献できるＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）人材を育成する。 ③　他の高等教育機関や産業界等とのネットワークを強化し、あらゆる分野の知見を総合的に活用して、地域課題解決も視野に入れた教育・研究活動や地域貢献活動等を展開する。

３　教育に関する目標

（１）教育の質の向上

「卒業認定・学位授与の方針」と「教育課程編成・実施の方針」の一貫性や「入学者受入れの方針」のあり方等の継続的な点検を行い、それら３つの方針に基づく体系的で組織的な大学教育を展開するとともに、学生の学修成果の点検・評価を行い、教育の質の向上を図る。

また、宮崎に存する多様な課題に向き合い、宮崎公立大学の「特色」である分野横断的な「知」の融合による「総合知」を更に強化・活用して課題解決能力を培うことで、グローバリゼーションの変化や急速な情報化・技術革新等、予測困難な時代における潮流を見極め、多様性への深い理解をもとに、未来をリードする人材を育成する。

あわせて、学生の外国語によるコミュニケーション能力の向上を図り、教養あるグローバル人材を育成する。

（２）意欲的な学生の確保

宮崎公立大学の特徴や魅力を理解し、学ぶ意欲にあふれた学

生の確保を図るため、戦略的な入試広報を展開し、「入学者受入れの方針」にかなった学生を確保する。

また、公立の大学として、県内高校生を中心に志願者数を増加させるための方策を講ずる。

（３）適切な学修・生活支援の充実

学生の経済的な事情のみならず、障がいの有無や国籍をはじめとする多様性を尊重し、教職員が一体となって、学生一人一人に寄り添った修学上の支援及び心身の健康等に係る相談・指導等の生活支援を充実する。

（４）キャリア支援の充実

産業界と連携しながら、課題解決に資するインターンシップや長期インターンシップ等、教育的効果の高いインターンシップの拡充を図る。

また、学生の希望に沿った就職の支援を行うとともに、地元が求める人材の育成を通して県内での就職を促進する。

さらに、卒業後の就職相談にも、きめ細やかに対応できる体制を整える。

（５）魅力的な新学科の設立・運営に関する取組の実施

グローバル化やデジタル化に即した教育を更に推進し、これまで以上に学生から選ばれ、地域や社会から期待される大学として、その存在価値を高めるため、新学科の設置を着実に進めるとともに、新学科の設立・運営に向けた組織の体制の充実を図る。

４　研究に関する目標

（１）特色ある研究の推進

宮崎公立大学が有する人的資源や教育研究成果等、幅広い分野の専門的知識を生かし、分野横断的に複数の学問を連結・融合させる学際的研究を推進する。

また、現在取り組んでいる研究の深化・発展はもとより、宮崎公立大学の「特色」である分野横断的な「知」の融合による「総合知」や、「強み」である外国語教育を生かしながら、他の高等教育機関や産業界等、様々な団体と連携し、地域の課題解決につながる実践的な研究を推進する。

（２）研究環境の整備

外部資金や研究環境等、研究の推進に必要な資源を確保し、研究基盤の強化を図るとともに、学内外の共同研究の推進をはじめとする研究支援体制の点検、改善を図る。

５　地域貢献に関する目標

（１）地域社会への貢献

他の高等教育機関や産業界等、様々な団体との連携を強化して地域社会のニーズを積極的に把握するとともに、教育・研究活動を通じて培った知的資源を地域に還元する。

また、リカレント教育やリスキリング支援の取組を進めるとともに、開かれた大学として住民に広く学習の場を提供する等、地域の人々が大学と関わり、学びを通して人生を豊かにする機会の創出に取り組む。

さらに、市内の小・中学校、高等学校等の教育機関と連携した取組を展開し、地域の児童生徒に大学が持つ知識や学びの楽しさを伝えることで、未来を担う児童生徒の学問に対する興味・関心の促進を図る。

加えて、各種市民活動団体やまちづくり団体、地縁による団体、地域の事業者等とも連携しながら、学生の地域活動や市民等との交流を促進する。

（２）多文化共生・共創の推進

関係団体との連携のもと、在住外国人等を対象とした講座の開設や交流機会の創出等を通した外国人支援に取り組むとともに、多文化交流活動を通した学生と地域の学び合いの場を提供し、多文化共生・共創の推進に寄与する。

（３）地域情報化の推進

大学の資源を活用して、関係団体とも連携しながら、地域の情報化の推進及び地域産業のＤＸの支援に取り組む。

６　業務運営の改善及び効率化に関する目標

（１）組織運営の改善

大学を取り巻く環境の変化に適切に対応するとともに、広報活動や学生支援等の業務を更に効果のあるものとするため、これまでの組織形態にとらわれることなく、合理的な組織体制の構築を図る。

また、デジタル技術等を活用して生産性の向上を図るとともに、事務の合理化等による業務運営の改善に努める。

さらに、教職員について、研修等を通じて意欲や能力の向上を図り、業務等を適切に評価する。

（２）コンプライアンスの徹底

学生や保護者、地域等の信頼に応え、適正な業務運営を確保するため、法令や学内規定等の遵守を徹底する。

また、社会の新しい価値観に柔軟に対応できるよう、時代の潮流を見極めたリスク管理の取組を強化する。

（３）安全管理の徹底

学内の安全衛生管理や事故防止、大規模自然災害等の発生に備えた危機管理体制を強化するとともに、施設や情報セキュリティに関する点検、改修によるリスク管理の徹底を図る。

７　財務内容の改善に関する目標

（１）効率的・合理的な財務運営

教育研究水準の維持・向上を念頭に置きながら、中長期的な視点を持って経営の効率化や教職員数の適正管理を行う。

（２）自己収入の確保

寄附金の獲得や講座等の受講料の見直し、法人が保有する施設の有効活用等、法人の創意工夫により経営基盤の安定化を図る。

（３）施設設備の適正な維持管理

施設の長寿命化をはじめ、計画的な施設設備の維持管理に取り組む。

８　自己点検・評価及び情報提供に関する目標

（１）厳正な自己点検や評価の実施

客観性の高い指標を用いて厳正に自己点検・評価を行い、ＰＤＣＡサイクルにより、教育・研究及び業務運営の改善につなげる。

（２）学内情報の発信

宮崎公立大学への理解と広範な支援を得るため、法人の運営状況等の基本情報のほか、教育・研究活動や地域貢献活動に関する情報を、様々な広報媒体を通じて効率的・効果的に発信する。